

体験を充実させるためにICTを効果的に活用



瀬戸SOLAN学園初等部 副校長
講師:三宅貴久子 氏

今、学校現場では探究学習に注目が集まっています。瀬戸SOLAN学園初等部では、1年生から個人探究に取り組んでいます。フィールドワークなどの体験をさらに充実させるためのアイテムとしてICTは欠かせません。また、個別最適な学びだけでなく、協働的な学びを促すためにICTを活用しています。一人ひとりの興味・関心を広げて探究を深めてくためのICT活用について、みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

SOLANの「カリキュラム構想」

学習指導要領の分析から「習得—活用—探究」の3つのレイヤーでのカリキュラムを構想し、5つの学習様式を用意しています。

SOLANの特徴は、1年生から個人探究に取り組んでいることです。「探究学習」は、子ども自身の興味・関心に応じた課題解決を通してこれからの社会に必要な資質・能力を育成することをねらいとした学習活動です。



ICTを活用することが大前提

体験を充実させるためには、ICTを効果的に活用していくことが大切です。しかし、あくまでも探究を深めるための手段の一つであり、子どもが自らが選択肢の一つとして、有効活用できる知識やスキルを身につける必要があります。タイピングや情報モラルの技法は基盤として、汎用的な能力として情報の集め方や思考スキルの指導は大切です。また、専門領域のプログラミングや情報科学、統計などの指導も大切に扱っています。

講演に関する感想

とても新鮮で刺激を受けました
強い信念とエネルギーを感じました



・瀬戸Solan小学校の探究の実践を聞くことができ良かったです。探究をするには、環境が大切であることも分かりました。伊那小と似ているようで、似ていないという印象を受けました。瀬戸SOLANの教育に対する熱量に圧倒させられた時間でした。伊那小の教育の世界観は独特なものだと思っていましたが、自分が知らないだけで、外の世界にはいろいろな教育の世界観があるのだなと感じました。

・私立と公立じゃあ出来ることは全然違うでしょ！と思っていましたが、公立でもできることはあるなあと感じました。探究的な学びのプロセスを常に回すことで、常に課題を見つけ、探究していく子どもが育って行くのだと感じました。もちろんこれだけでは、主体的な子どもが育つわけではありませんが、まずはこれを取り入れることが必要だと感じました。また、子どもが学び方を選ぶように近くに置いておく、使い方を子どもたちに教えると言ったことも大切なんだなあと感じました。

・習得 探究 学習 の段階を分けた学習の場の設定大変興味深かったです。今後の授業づくりでも意識していきたい。

・子どもたちが、自主的に探究できる環境づくりがとっても大切なんだなと感じました。子どもにとっては難しい、困ってしまうのではないかと感じていましたが、もっと子どもの可能性を信じて力を発揮できるように何ができるか、考えていきたいと思いました。

・探究させることは、この先の時代必要になることはもちろんわかりますが、やはり公立学校でやるには限界があるので、公立学校でできること、探究のサイクルやルーブリックなど活用して子ども達が自立して学習するように促していきたい。

・小学校単位では難しい話が多かったですが、考える視点や課題、見通しをしっかりと持たせることが大切だと感じました。

・子どもひとりひとりの興味に合わせて探究できる時間はすごくいいな、うらやましいなと思いました。多く時間は確保してあげられなくても、きっかけや環境はつくってあげたいと思いました。

・探究は長野県でも大切に考えられていることなので、興味をもって参加しました。私立だからできる、特別な学校だからできる、遠くに置くと、これではなく、本校においても学習者主体の特色ある教育ができないかを検討していくことが大切なのではないかと感じました。

・日常生活の自立・自律という面で苦しんでいる子どもたちのために今の自分にできることは、学習環境をデザインすることかなと思いました。

・学校教育の未来像を具体的にお示しいただいたように感じています。特にICT機器の利用については、特別な用具で無くなっているところに、これから私たちが見据えていく使い方を見ることができました。

・三宅喜久子先生の個人探究の話は、勉強になることが多々ありました。子ども達に委ねる、子どもがテーマをもって自ら学ぶ時間を保障することをまず基本に考え、できることから始めてみたいと思いました。

・講演会はとても新鮮で刺激を受けました。強い信念とエネルギーを感じました。自立、自律した学習者になるための様々な工夫や取り組みや考え方が勉強になりました。

・講演会では、自分ではとても思いつかないような工夫に驚かされました。自分も考えを固定したものにならないよう、疑問をもつことや子ども達のより良い学びが展開できるように考えていきたいです。

・瀬戸SOLAN学園の実践は大変参考になりました。副校長先生のご紹介の言葉もスライドもどれも素晴らしい、刺激になりました。取り入れたいと感じたこともありましたが、本校の取り組みを見返す機会にもなりました。

・瀬戸SOLAN学園の取り組みについて、共感できる部分が多かった。子ども達が主体的に探究に取り組むために、教師はどのような支援ができて、どんな環境を準備できるかを考えさせられました。探究のテーマについて、良い悪いはなくどんなことでも探究に繋がると思うので、こちら側の問いかけ一つで子ども達の視野が広がっていくと感じます。教師も諦めずに伴走するべきかなと感じました。

講演に関する感想の一部を紹介しました

ICT Conference in INAでの三宅貴久子氏の講演をもとに推進センターで編集させていただきました

三宅貴久子氏による講演 **探究学習における学習環境デザイン**は「伊那市教育チャンネル」(YouTube)で配信しています。

講演の内容につきましては上記の記事では充分に内容をお伝えできません。ぜひ「伊那市教育チャンネル」でご覧になって下さい。

